

日本の伝統的食品・鰹節の加工工場を中国に立ち上げ

丸啓鰹節株式会社



花かつお

御前崎に産声—経営理念は「五つの誓い」

「信用第一、品質本位、創業開発、感謝報恩、互譲礼節」丸啓鰹節（株）の社是である。

同社の創業は昭和37年。先代の澤入啓二氏が静岡県御前崎に丸啓商店を開業、鰹節の卸売りとかピ付けからスタートした。昭和63年には丸啓鰹節（株）に衣替えし、平成元年には鰹節類の粉砕業務も始める。以後順調に業績を伸ばし、平成8年には5,000万円に増資、本社工場に加え、平成9年に海岸第1工場、平成14年に海岸第2工場を建設、生産規模を拡大し、鰹節研究所も設置して今日に至っている。

取扱商品は、本節、亀節、準本節といった鰹節のほか、サバ節、イワシ節、マグロ節などに及んでいる。加工後の製品は、殺菌品、削り節、混合削り節、だしパック、粉末など多岐にわたる。

「①時代にあったおいしい物作り、②食を通して健康に貢献する人作り、③本業に関する仕事であれば、人生は一度、常に緻密に計算し、勇敢にチャレンジする人作り、④お客様に喜ばれ、必要とされる会社作り、⑤資金の貸借はしない、体力作り」—澤入庸介社長は、経営理念として「五つの誓い」を掲げる。

鰹節よ、世界に羽ばたけ—鰹節は日本の伝統文化

原料となる鰹節には国内節と海外節があるが、同社では海外節のウエートが高い。同社では早くから海外節に目をつけ、開発に携わってきた。鰹節を食べる食文化のない東南アジアで、鰹節を作るにはどうすればいいのか。

タイ、インドネシア、ベトナムなど鰹節供給先の現地工場と提携し、徹底した技術指導と衛生管理指導により、高品質の原料鰹節を確保してきた。現在、日本全体の鰹節輸入量の約40%を同社が占める。

澤入社長は、鰹節を「先達たちが磨きかけた、日本の伝統ある文化を持った食品」（同社著作「鰹節入門」より）と位置付ける。「鰹節の持つ味は日本人のDNAに刻みこまれたものであり、食生活の変化の中で巧みに液体や粉体に姿・形状を変えてきてはいるが、その特有の味覚は国際商品に育つ要素を持っている」（同）というのが澤入社長の哲学である。おいしく、栄養価の高い鰹節をなんとかして世界に広めたいという気持ちが、同社を海外展開に駆り立てている。

今後、大幅拡大が見込まれる中国市場攻略のため、同社が中国での鰹節加工工場建設計画に着手したのは、平成15年3月のことである。中国事業実現のための戦いが始まった。中国事業の推進役を担う川口顧問が、当機構を初めて訪れたのは同月。以来、当機構による国際化支援アドバイスは20回を超える。

育て、中国工場—産みの苦しみを克服

まずは、中国に進出する際の留意点、F/Sの進め方、現地法人設立の手続きといった基本事項からアドバイスを始め、最初にクリアすべき点は、中国における鰹節加工生産が果たして事業として成り立つかどうかであった。需要先は確保できるか。食品加工工場建設に対して法的規制はないのか。労働者の賃金水準はどうなっているのか。原料の鰹節を持ち込む際の課税（輸入税および増徴税）はどうか。これらの疑問に対して、その都度専門家の登録アドバイザーとともに出来るだけ詳細な情報の提供につとめた。同社はこれと並行してアクションプランを作成、慎重にF/Sを進める。その結果、同社は中国事業の推進にゴーの経営判断を下した。

次には、進出の形態と工場立地をどうするかについてである。中国企業から合作の申し出を受けたが、結局独資で進出することに決めた。工場立地については、中国政府の規制が厳しくなり、当初予定していた開発区の許可が下りないなどの問題が生じた。平成15年9月、最終的に独資による上海市金山区への進出を決める。

また、日本人社員の現地派遣が難しいため、現地法人

の総経理には中国人を充てる必要に迫られた。これに関連しての留意点や、職務権限、労働契約、就業規則などについてのアドバイスは回を重ねた。

さらに、中国国内販売にどう対処するかも重要なテーマであった。留意点のほか、国内売買契約、代理店契約などについて資料を提供、助言を行った。

川口顧問は、当アドバイスに対して、「今回の中国進出にあたり何も分からないままに進んできましたが、進出調査から現在に至るまで多くの有益な助言を頂き、助かっています。」と語っている。

事業の構想から1年8ヶ月、幾多の産みの苦しみを克服してきた同社は、平成16年11月、上海現地法人設立にこぎつけた。そして、平成17年4月に操業を開始し、中国事業をスタートさせたのである。中国国内販売に加え、本年5月には輸出を始める予定である。生産能力も現在の年間160~500トンから、2~3年後には年間1500トンに増強する計画である。

（経営支援専門員 高島 清）



丸啓水産品加工（上海）有限公司

丸啓鰹節株式会社

(日本本社)	
所在地	: 静岡県御前崎市
代表者名	: 澤入庸介
業種	: 製造業
事業内容	: 鰹節、鯖節、鮪節の加工販売
商品の内容	: 国産節および輸入節の削り節、混合削り節、だしパック、粉末
創業年	: 昭和37年（1962年）
従業員数	: 23名
資本金	: 5,000万円
年間売上高	: 27億円
(海外拠点)	
対象国	: 中国
地域	: 上海市金山区
企業名	: 丸啓水産品加工（上海）有限公司
事業内容	: 輸入鰹節の加工販売（花かつお、糸削り、かつお粉末）
創業年	: 2004年11月
従業員数	: 15名
資本金	: US \$91万、総投資額 US \$130万
投資形態	: 日本側独資（当初は丸啓鰹節株が100%出資、後、ヤマキ株に30%持分譲渡 従って現状の資本構成は、丸啓鰹節株70%、ヤマキ株式会社30%）

専門員の視点

中国における日系の食品加工工場は、現地の原材料を使い、加工した製品を対日輸出するのが一般的である。これに対し丸啓鰹節の場合は、原料の鰹節をインドネシアから輸入し、加工後、主として中国国内で販売するという新しいコンセプトに基づき、中国工場を立ち上げたものである。

ヤマキ株式会社というパートナーも得て日系や外資系企業に加え、中国企業に対する販売も本格化してくると思われる。また許認可取得により輸出に道が開けたことで、事業の一層の拡大が見込まれる。

同社が中国事業を立ち上げるまでの道程は平坦ではなかった。川口顧問の何とかして事業を成功させたいという熱い思いと粘り強い努力がなければ、決して成し得なかったであろう。ぜひ中国での事業を同社の柱に育てていただきたいと切に願うものである。